



今日のグッジョブ

〔対馬振興局林業課〕

対馬の森林資源を未来へ



対馬のシンボル・白嶽(標高519m)を望む林道「しらたけエコライン」沿いの展望スペースに集合した林業課の職員。左から4番目が山部課長



林政班 深堀 淳太郎さん

通常、原木しいたけは林の中で生産しますが、気候に左右されないハウス栽培も増えているため、その施設整備の補助・支援を行っています。林業経営者や原木しいたけ生産者と直接話をしながら支援できることがやりがいにつながっています



林政班 多岐 輝さん

県営林で間伐した木材を販売し、収益を還元することで、先人が育ててきた森林資源を地域振興につなげています。また、対馬には4万頭ものシカが生息しており、木の芽をかじるなど被害が深刻なため、関係部局と連携して対策を検討しています

対馬の森林資源を生かした林業や原木しいたけ生産を支援する姿に Good Job!!

平成15年度まで日本唯一の「しいたけ課」があった対馬振興局。現在も原木しいたけの品質は高く、今年度も全国規模の品評会で対馬の生産者が農林水産大臣賞を受賞した



県営林の現地調査で木の幹の直径を測り、収穫できる木材の量を推定します



森林整備の調査では釣竿を改良した道具で木の密度を測り、密度が高い場合は間伐します

対馬の林業・木材産業を支援

総土地面積およそ7万haの約9割を森林が占める対馬。対馬振興局林業課では、木材や原木しいたけなどの林産物を生産する林業と木材を加工して製品化する木材産業を振興するために、対馬市と連携して支援を行っています。

職員は、林業専門の9名で、林政班と普及班の2班体制。林政班は、主に森林法に基づく計画制度に関する業務や森林の整備、原木しいたけの生産を支援しています。普及班は、林業・木材産業に携わる人たちへ技術指導を行うほか、労働力不足や運搬コスト抑制など対馬の林業の課題への対応や支援などに取り組んでいます。地元の林業関係者や原木しいたけ生産者と仕事をする機会も多く、プライベートでも地域活動に参加するなど、地元の方々との触れ合いも大切にしています。

「対馬の森林には植えられてから45年以上経つスギ・ヒノキが多く、利用期を迎えており、平成32年には木材生産量9万立方メートルを目標にしています。(平成28年は約5万6千立方メートル) また、昭和25年頃から県が指導を行って

いる原木しいたけ栽培技術は全国トップレベルです。今後も既存の生産者や新規参入者を支援し、平成28年の生産量約50トン、平成32年には100トンまで増産できるように環境整備を進めます」と山部経浩課長。

対馬振興局林業課では、今後も林業や木材産業を支援し、対馬の産業振興に貢献していきます。

県土面積の約6割を占める森林には、水資源の確保や山地災害の防止、二酸化炭素吸収など多くの機能があります。

森林を計画的に整備し、林業を地域の良質な雇用の場とするため、木材やしいたけなどの林産物生産の収益性向上に向けた支援を行い、豊かな森林づくりに取り組んでいきます。



長崎県知事 中村 法道